

## 研究者と話そう

■時 間：14:30～15:30(予定)  
(常設展示場および特別展示場観覧料が必要です。)

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」など  
など、話題や内容は千差万別!  
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。



メキシコ独立記念日パレードを見入る女性

9月7日(日)  
鈴木 紀 (先端人類科学研究部准教授)  
ナショナルリズムの季節:メキシコの9月  
於:アメリカ展示

9月14日(日)  
出口 正之 (文化資源研究センター教授)  
南アフリカとサウスカロライナ  
於:イントロダクション展示

9月21日(日)  
竹沢 尚一郎 (民族文化研究部教授)  
サバンナの「河の民」ボゾの生のかたち  
於:展示場内休憩所

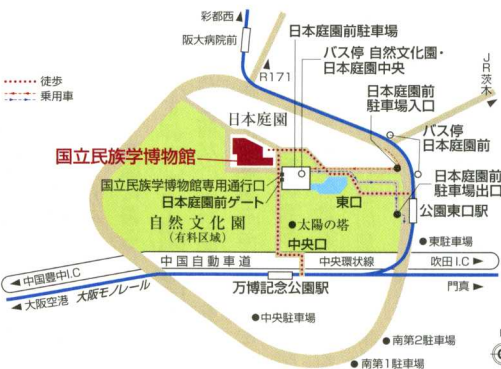
9月28日(日)  
川口 幸大 (研究戦略センター機関研究員)  
中国のお墓参り  
於:中国地域の文化展示

### 編集後記

この夏休み、初めて沖縄に行った。泳ぎはどちらかというと不得意で、ダイビングもシュノーケリングも経験したことがなく、おサカナの世界は水族館が図鑑でしか見る機会がなかった。そんなわたしでも、サンゴ礁が間近にせまる浜で、水中眼鏡をしてちょっとのぞいただけで、色とりどりのサカナが目の前を泳いでゆくのをみることができ、まるで竜宮城の舞いを見せられた浦島太郎のように感動した。

サンゴは生きているあいだは多くの海の生物のすみかとなる。竹村先生も江口先生もそんなサンゴ礁のような存在であられたような気がする。わたしは竹村先生には残念ながらお会いする機会がついになかったが、江口先生の「サンゴ礁がり」は、特別展やイベントなどの際にたびたび目にしてきた。サンゴに熱帯魚が群がるように、いつも色鮮やかなでたちの江口先生の周りには、同じく多彩な人びとが集まっていた。

サンゴの残骸は波や風にもまれて砕かれ、やがて美しい白い砂浜になるという。しかし、先生のカラフルな残像はまだ当分消えそうにない。消えるどころか、尾ひれがついて語り継がれ、ますます極彩色な竜宮伝説と化してゆくのではないだろうか。両先生のご冥福を祈る。(山中 由里子)



### 交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。



次号予告/10月号特集  
インド映画

2008年9月号 第32巻第9号通巻第372号  
2008年9月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1  
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎  
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔  
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

- 本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画運携係へ
- 本誌掲載記事の無断転載を禁じます